

りべら (Libella) はラテン語でトンボの意味です。あおぞら財団はトンボが飛び交うまちの再生を願って活動しています。

2017年3月末、「うめきた菜の花ミツバチプロジェクト」さんから「エコでつながる西淀川推進協議会」が菜の花プランター472鉢を譲っていただきました。佃地域や運輸事業者の方々のボランティアによるトラック輸送で、梅田から西淀川区内の廃油回収拠点になっている学校や施設に運び、菜の花を楽しんでいただきました。

特集：公害資料館ネットワークと協働

公害資料館ネットワークができて変わったこと・・・1

公害資料館連携フォーラムで思うこと・・・3

フォーラムのこれから 吉永利夫 3

資料館の役割いろいろな角度から 高木勲寛 3

企業にとって社会的課題としての公害 五十嵐実 4

展示分科会に関わって 北村美香 4

新湯水俣病資料館から見た公害資料館ネットワーク 塚田真弘・・・5

伴走支援者から見た公害資料館ネットワーク 江口健介・・・6

公害資料館ネットワーク4年目を終えて 高田研・・・7

忙中一筆 スタディツアーからネットワークへ 白神加奈子・・・8

教材使ってみませんか？教材モニター募集・・・9

西淀川モノづくり会社 フードテクノエンジニアリング株式会社・・・10

西淀川記憶あつめ隊 井上善雄さん・・・11

ぶらりとゆるりと西淀川めぐり・・・12

世界の大气汚染と交通政策 インドネシア編 湯川創太郎・・・12

総合計39,118.2

(2009年7月から2017年3月まで)

※諸事情により2017年1月分2分はデータの一部分を集計。

2017.5

144

号

りべら

2017.5

144

号

発行所：公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

あおぞらフォトギャラリー



資料館

塩屋幸男西淀川区長があおぞら財団を訪問されました。西淀川公害訴訟や和解の経緯、財団の活動を説明した後、区と財団で協働で取り組める事業について意見交換を行いました。(2017.3.13)



まちづくり

西淀川区の風の子育ち園、姫島こども園で行われた福祉避難所開設訓練に協力しました。(2017.2.16)



まちづくり

毎年2月20日開催される、野里住吉神社の一夜官女祭(大阪府指定文化財)。人身御供の伝説を神事として伝えるもので、7人の女兒と膳を運ぶ行列がまちを練り歩き神社へと向かいます(2017.2.20)

お知らせ

●矢倉海岸・緑陰道路 探鳥会

これまで10年以上に渡り、基本的に毎月1回開催してきた矢倉海岸定例探鳥会を、2017年度より、春・秋・冬の3回開催にリニューアルします。

お間違いなきよう、引き続きご参加お待ちしております！

日時：9月17日(日)9:30～12:30

※冬は2018年2～3月開催予定

集合：阪神なんば線福駅集合(9:30)

主催：あおぞら財団

協力：日本野鳥の会大阪支部



あおぞら財団とは

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判(1978～1998)では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

あおぞらビル

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。
午前：1,000円／午後：1,300円／夜間：1,300円／全日：3,000円

【5F】西淀川・公害と環境資料館(エコミュージズ)

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。

開館日 月曜日と金曜日(10:00～17:00)／要事前電話予約

●いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

広告募集

あおぞら財団の活動にご賛同いただける方からのりべら広告の掲載を募集しています。

会員や西淀川の公共施設、店舗などに配布します。※お問合せ先：あおぞら財団まで

【りべら広告掲載費】

中面1/9頁：1万円／回、中面1/3頁：3万円／回、中面 全面：9万円／回

会員・寄附募集

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

●賛助会員 会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。

【年会費】個人：年一口5,000円、学生：年一口2,000円、
法人・団体：年一口10,000円

●会費・寄附の振込先

※郵便振替口座 00960-9-124893 加入者名：あおぞら財団

※三菱東京UFJ銀行 歌島橋支店 普通 3764689

口座名義：あおぞら財団賛助会員



廃油
回収量

公害資料館ネットワーク 協働特集

2013年からスタートした公害資料館ネットワーク。おおぞら財団が事務局を務めて、公害資料館連携フォーラムを毎年開催し、「公害を伝える、公害から学ぶ」ことは何かを議論しています。4年間の成果とこれからをお伝えします。●林

「公害資料館ネットワークができて変わったこと」

公害スタディツアーからの発展

「公害資料館のネットワークをつくらないか」と、新潟県立環境と人間のふれあい館—新潟水俣病資料館—の塚田真弘館長から呼びかけがあり、おおぞら財団が事務局を引き受けることとなりました。(5ページの塚田館長の原稿も参照してください)
塚田さんがおおぞら財団に声をかけたきっかけは、2010年に新潟で開催した「公害地域の今を伝えるスタディツアー」にて、参加型の学びの場を開いたことにあります。
また、このスタディツアー(2009-2011)で関わったスタッフや参加者が、引き続き公害資料館ネットワークのコアメンバーとして関わってくださり、ツアーで感じた公害教育の可能性を広げようとする場を作ることができました。

協働と公害資料館の親和性

「公害を伝える」という時、立場によって語る事実が変わる難しさがあります。行政は、公害の発生を抑制するための監督をしなければならない立場にあり、被害者から見た公害とは違う景色があります。もちろん、企業から見れば違う景色になります。
公害資料館は公立もあれば、民間もあります。館という施設を持たなくても、フィールドミュージアムとして公害を伝える活動をしている団体もあります。また、アーカイブズとして公害資料を保存している組織もあります。
様々な立場の人たちが、「公害を伝える」という共通点に立脚して、知恵を出し合い、協力し合うために、対等な関係性で議論をする「協働」の考え方が、新しい価値観を作り出す動きと親和性が高いことが、だんだんとわかってきました。これまでは、他の団体が行っていることに批判的になりがちでしたが、公害資料館ネットワークを結成してからは、共に公害を伝えるという困難を抱える「同志」であり「仲間」であるという意識が生まれてきました。

未来志向と公害教育

公害教育の誕生は、1960年代の日本において公害が社会問題になった時代にさかのぼります。その時代に行われてきた公害教育は、「現在進行形の」公害問題を解決するために行われてきたものです。それらの思いを引き継ぎつつ、公害を知らない世代が「公害から学ぶ」ためには、未来の視点も必要になってきます。持続可能な社会をつくる新しい価値観を作り出すために、一つの地域の実践だけでなく、全国の公害被害地域と一緒に実践を共有していくことが求められています。
公害教育は学校だけでなく、企業や行政にも必要なことです。また、その基礎となる公害資料の保存と活用、展示施設の在り方など、議論する点はたくさんあります。
仲間が増えて、持続可能な社会をつくるという希望に満ちていることが、公害資料館ネットワークができて変わったことと言えるでしょう。

実行委員会形式で

フォーラムを開催しました。研究会の議論をより深めるために、関係する学会(日本環境教育学会、日本アーカイブズ学会など)や大学との連携しながら議論を深めることができつつあります。



宮本憲一先生による公害入門講座

「協働取組」を進める

ために、ビジョンを作ることを目指しました。いろいろな立場であっても、合意点を見つけることの大切さ、難しさを実感した1年でした。フォーラムの分科会で議論してきたことを積み重ねるために、研究会を新設し、濃く議論することができたのも、2015年の成果です。



協働ビジョンを議論

公害地域再生が一番進んでいる富山で、企業の取り組みを資料館で聞くことを目指して

神岡鉱業株式会社に交渉を重ね、フォーラムで実現されました。富山ではこれまでフィールドワークをしていませんでしたが、フォーラムで試験的に実施しました。現地の人たちにとっては「ただの田んぼ」でも、土壌入れ替えをした田んぼに見入る参加者の姿に、現地の人たちが驚く様子が印象的でした。



企業分科会の一コマ

最初は「公害資料

館が集まる」ことの合意を取ることがまずは難しかったです。MLで情報交換をしようとしても、「見知らぬ相手とやり取りするのは怖い」と拒否する人も。まずは顔見知りになること、交流することが有益であることを互いに実感することが大切でした。そのためのヒアリング調査が有効だった一年でした。



環境省環境教育推進室長によるあいさつ

お知らせ

第5回公害資料館連携フォーラム in 大阪
2017年12月15〜17日 会場：大阪市立大学
ぜひご参加ください

※公害資料館ネットワーク協働ビジョン
各地で実践されてきた「公害を伝える」取り組みを公害資料館ネットワーク内で共有して、多様な主体と連携・協働しながら、ともに二度と公害を起こさない未来を築く知恵を全国、そして世界に発信する。

JNCヒアリング

第4回公害資料館連携フォーラム in 水俣(主催：第4回公害資料館連携フォーラム in 水俣実行委員会)

http://kougai.info/

2016年

平成27年度環境省地域活性化に向けた協働取組の加速化事業に採択(公害資料館ネットワーク・事務局：おおぞら財団)
四日市にて現地会議開催
研究会「資料保存」「企業」「学校」をテーマとした研究会を開催
公害資料館ネットワークの協働ビジョンの作成
第3回公害資料館連携フォーラム in 四日市(主催：公害資料館ネットワーク)参加者185人
公害資料館ネットワーク協働ビジョン※を公表
ホームページ開設、パンフレット完成
公害資料館ネットワーク 地球環境基金採択
第4回公害資料館連携フォーラム in 水俣実行委員会結成、JNC水俣工場見学
夏・秋 研究会(資料保存・企業・学校)を開催。学校の研究会は日本環境教育学会の研究プロジェクトの一つとして開催

2015年

公害資料館現状一覧表を作成
平成26年度環境省地域活性化に向けた協働取組の加速化事業に採択(おおぞら財団)
富山にて現地会議開催 神岡鉱業株式会社と交渉、フィールドワークの可能性を探る
各地の公害資料館にヒアリング、「公害資料館連携」とは「合意文書の作成」
第2回公害資料館連携フォーラム in 富山(主催：公害資料館ネットワーク)参加者153人
合意文書「公害資料館連携」とはの発表

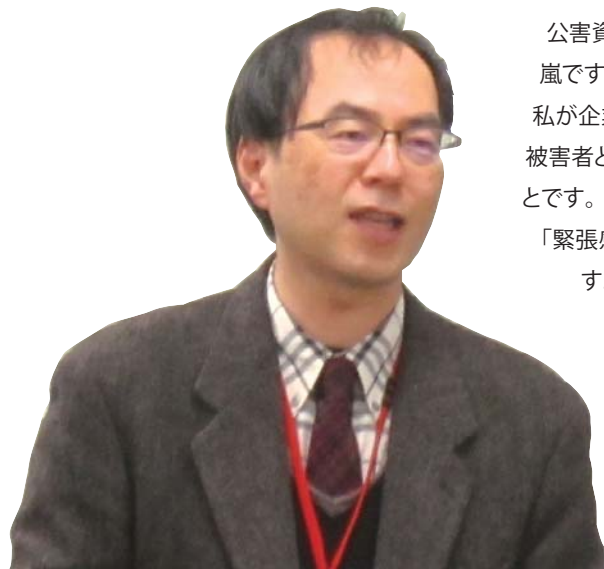
2014年

公害資料館ネットワーク会
議開催 公害資料館ネットワーク結成
第1回公害資料館連携フォーラム in 新潟(主催：公害資料館ネットワーク)参加者94人
新潟で現地会議開催
各地の公害資料館にヒアリング

2013年

平成25年度環境省地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業に採択(おおぞら財団)

「公害資料館ネットワーク年表」



五十嵐 実さん

日本自然環境専門学校校長
あがのがわ環境学舎理事

公害資料館ネットワークで、企業分科会を担当している五十嵐です。

私が企業分科会を担当するきっかけは、富山のイタイイタイ病被害者と原因企業の三井金属（神岡鉱業）との関係を知ったことです。

「緊張感ある信頼関係」、一言でいうとこれが両者の関係性です。毎年、原因企業の内部への被害者団体、専門家の調査を行い、ともに「下流に命ありき」を前提にした協力関係が出来上がっていたこと。「対話」を繰り返した中で公害と真摯に向き合う姿勢ができていました。この中に、公害との新たな向きあい方、公害を社会化、普遍化して一般企業にも学べるヒントがある。そう思ったのがきっかけです。

一般の企業には「公害」は馴染みのないことのように感じています。しかし、現在、すべての企業も、様々なステークホルダーと対話をする必要があり、「公害と企業」はその最も重要な題材を与えていると思います。

その意味でやりがいを感じ担当しています。

企業にとって 社会的課題としての公害

ちよいと昔は「公害と言えば日本のこと」だったのに、今や子どもたちに「公害って何？」と、言われそうな時代になった。環境汚染が減ったからだろうから「喜ばしい」とも言えそうだが、そんな時代に「公害被害者の今」「環境汚染による社会的被害」「公害地域の地域づくり」等々のテーマで、様々な地域の課題を提起していくことは至難の技であろうと想う。

当方は「水俣病と水俣地域」しか知らないから、公害資料館連携フォーラムにはとても興味があつた。「公的資料館の役割」「公害教育の課題」「公害資料の保存と活用」等々である。そんな中で無事終了した「第4回公害資料館連携フォーラム in 水俣」では、資料館や公害運動関係者が参加するのは当然だと想っていたが、大学等の研究者が多かったことに驚いた。どうやら「公害」は、理不尽を強いられて来た「被害者による闘い」の時代から「研究対象」の時代に入ったのではないのだろうか。

そんな時代も反映して、公害資料館連携フォーラムは被害者の闘い、認定・補償の闘い等々、過去のことから学ぶテーマが多い。だから先日「水俣大会」も、事例報告が多かった気がする。もちろん、事例から学ぶことも多い。しかしそれはこれからの活動や子どもたちのために、新たな取組みや捉え方を伴ってなされなければ、単なる「研究対象」で終わってしまう。

「公害」は、企業と行政を当事者として、地域の住民と仕組みを巻き込んで進んでいく。住民と企業との関係のあり方は「CSR」などの横文字も含め、「地のもん」と「よそもん」が、経済活動を超えて信頼関係を築けるか否かにある様な気がする。

そうした中で「公害資料館」は、住民と企業を繋ぐ中核的存在になり得るはずである。今回のフォーラムでは、その点の脆弱さを感じた。今後の「公害資料館連携フォーラム」は、各地の公害資料館が「過去の公害事例」を研究者に紹介するだけでなく、地域コーディネーターとして新たな取組みを、テクニックも伴って担える「業界の代表」として成長することを、下支えする「場」になってほしいと切望する。



吉永利夫さん
(株)ミナコレ代表取締役

フォーラムの これから



公害資料館連携フォーラム に思うこと

公害教育を実施している組織の交流、学びの場として公害資料館連携フォーラムを毎年開催しています。
分科会の担当者、開催現地、被害者団体からのコメントです。

主な分科会：学校、企業、資料保存、地域づくり、展示など



北村 美香さん

結creation

展示分科会に 関わって

博物館でお仕事をしていますが、公害資料館へはほとんど足を運ぶ機会がなかった私が、フォーラムの展示分科会実行委員となって、はや2年になります。公害というテーマに対し、展示はどのように向き合っていくべきかを日々考えています。

展示とは、単なる「モノ」を陳列することではなく、意図を持って「モノ」を選び、意味を持って並べることです。「人に見てもらいたい」「伝えたい」というコミュニケーションの一つの形態でもあります。多くのことを考えて作る展示ですが、幅広い方に見ていただけるように、そして時間の流れと共に変化し続ける必要があります。ここで難しいのは、よい展示というものは時代によって、展示を作る人によって、あるいは展示を含む資料館を運営する人によって、すべて異なってしまうことです。このように時代によって、人によって異なる展示像に対して、公害を学び、未来をともに考えて取り組むためには、どうしたらいいのでしょうか。公害資料館の展示のあり方を一緒に考える場となることを、展示分科会では目指します。

「イタイイタイ病（以下、イ病）の鬼哭啾々の悲劇を繰り返さない為に」これが富山県立イ病資料館設置の県の大義であるかと考えます。富山市は重点事項とし県へ要望し、被害者団体も10数年前から要望を重ね2012年（平成24年）4月県立イ病資料館がオープンしました。神通川に清流が戻り、汚染田も復元され優良農地として甦りました。

原因企業と被害団体の「緊張感のある信頼関係」の構築は他の被害団体からは「そんなことが出来るのか」と疑問視されますが、カドミウムによる腎臓障害の方を救済することを40年余り、国へ「公害病に」との要望してきたことが認められなかった為、当協議会は約4年半、三井金属と交渉を重ね「神通川流域健康管理支援制度」を創設し救済が現在進行しています。

ここに至るまでの筆舌に尽くしきれない医学、科学、弁護団、行政、企業等の多くの方々の広い分野の関わりが有ったことを、資料館でどのように展示し、伝え、知ってもらうか！そしてイ病は終わっていない

ことも。これがイ病とカドミ被害の現状です。

全国の各々の公害資料館も被害者の闘いのレガシーを伝えていただく資料館であってほしいと被害住民としてお願いし、そのために必要なお手伝いをしたいと考えています。

資料館の役割 いろいろな角度から

高木 勲寛さん

イタイイタイ病対策協議会会長
一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会代表理事



新潟水俣病資料館から見た 公害資料館ネットワーク

新潟県立環境と人間のふれあい館 館長

塚田 眞弘

公害資料館連携フォーラムのこれまでをふりかえるにあたり、「四大公害病資料館の連携に向けて」というシンポジウムに向けて」というシンポジウムの復命書を見てみると、明らかに内輪のささやかなものからの出発だったことが示されておりました。富山で県立イタイイタイ病資料館主催の「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」の第一部として開催されたそのシンポジウムの後の懇談会の席上、富山県の資料館が

開館されてから毎年開催されるこのフォーラムに参加していることに申し訳ないという気持ちが出たことは間違いのないところでした。経費だけの問題ではなく、職員の方々の労力について、ただそれに甘えてばかりいてはいけないのではないかという気持ちがありました。そこで、単純に4館(四日市は当時準備室の資格での参加でした)持ち回りで開催し、展示

のこと、お知らせのこと、あるいは語り部さんの交流をはじめとするいろいろなものについて各館が情報を共有したのが、フォーラム開催のきっかけでした。この時は少々、お酒が入っておりましたので、勢い突っ走ったのかも知れませんが、会場費のことなど考えると、一寸頭の痛いことではありました。たまたま国の予算の「地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業」に馴染むというモーションがありました。ですがこの事業について、事務局は行政主導ではダメだということ、であおぐら財団にお願いして「公害資料館連携フォーラム」の開催が出来たということとです。

前述の様に各資料館の問題について各館が悩むのではなくて、共通のものとしての情報交換をすることによって、スタッフのマンパワーの補助にもなる



第1回公害資料館連携フォーラムin新潟にて (2013.12.7)

を考えると必要なのは、安定した活動資金の捻出になるのではないのでしょうか。

伴走支援者から見た 公害資料館ネットワーク

一般社団法人環境パートナーシップ会議(GEOC)担当

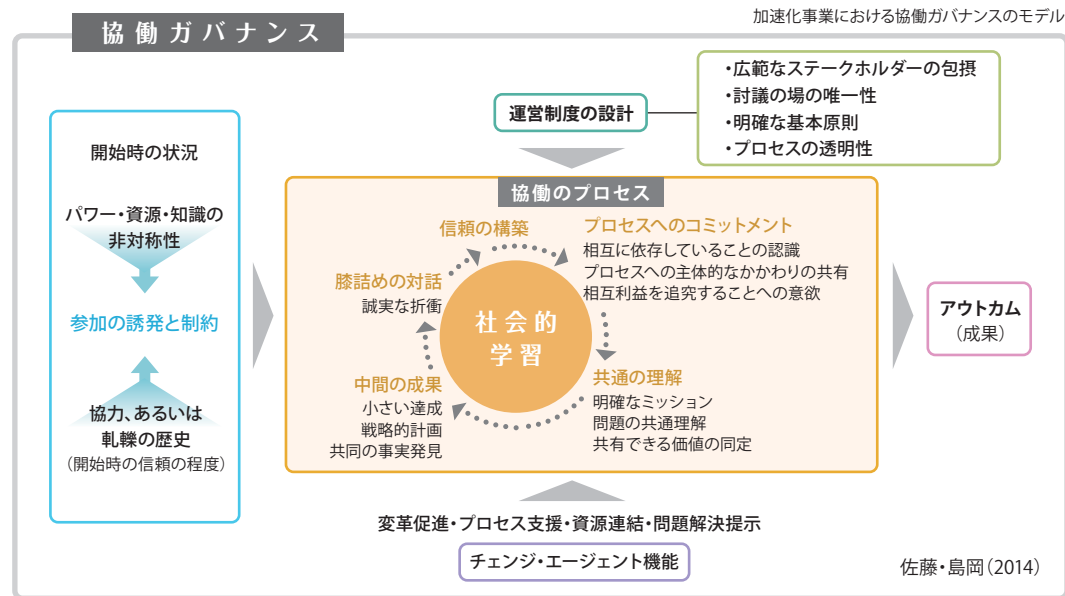
江口 健介



公害資料館ネットワーク設立のきっかけの一つとして「環境省地域活性化に向けた協働取組の加速化事業(以下、加速化事業)」の存在がある。加速化事業は、地域の環境課題解決のための協働取組のモデルづくりを目指した事業であり、平成25年度から3カ年に渡り、全国規模での協働取組モデルとして公害資料館ネットワークが採択された。環境省が設置した伴走支援者としての立場から、「協働取組」という観点で公害資料館ネットワークのこれまでの歩みを振り返りたい。

まず、開始時の状況としては、裁判や地域再生も含めた公害問題の経過が地域によって大きく異なり、資料館同士の取組

や市民運動の歴史は後者により明確に取り扱われている。その起因となる歴史的経緯も含め、改めて環境問題の中でも公害と被害の構図が明確に存在する公害というテーマにおいて、どのような協働ができるか、手探りのスタートであった。しかしながら、3年が経過して大きく状況は変わった。ネットワーク立ち上げに前後して行われた各資料館の訪問ヒアリングを通じて、各館の事業内容や機能が一覧化された。共通点と相違点、特徴が明らかになったことは、運営主体に限らず多くの現場職員が自らを客観視する機会になったことに加え、彼らを勇気づけ、相談相手年全国に作ったように思う。また、公害資料館連携フォーラムを2013



年から持ち回りで開催していることの意義も大きい。他所の公害地域を訪れることによる

参加者の学びもだが、開催地域の側も外からの視点が入ることとで再発見が進む。さらに

フォーラム分科会の議論が毎年の開催地やゲストのインプットを通じて蓄積されることで、中間的な成果を共有するサイクルが確立してきた。最後に、環境教育やアーカイブズの専門家がネットワークに参加をしていることも、ステークホルダーの巻き込みという意味では特筆すべきである。多様な属性の関係者が交わることで公立と民間との制度上の違いはあるものの、公害の経験は次世代に「伝える」点においては、従来の垣根は解消されつつある。今後は、協働取組を軸とした、益々の発展を期待する。



公害資料館

ネットワーク

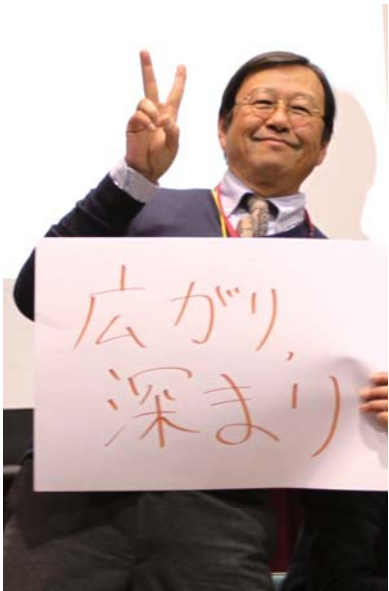
4年目を終えて

都留文科大学

あおぞら財団理事

公害資料館ネットワーク代表

高田 研



日の東日本大震災は、私たちの依拠してきた信望体系を根底から覆しました。とりわ

新潟で始まり、雪の富山を経て四日市、そして今年の水俣と、これで、ネットワークの仕事として北から南へ、4つのフォーラムを無事に終えました。この実施にあたっては、実行委員の想像をはるかに超える人々の協力がありました。

け原子力発電所の事故は、おびただしい量の放射能を拡散し土壌、海洋、大気を一気に汚染しました。公害問題に関わる我々の危惧は現実となり、2012年3月、富山で40年余かけた983ha(自主復元を含む)土壌復元工事の完了を待たずに、福島で土壌の汚染土除去工事が始まりました。

で協力を取り付けてくださった方々、会場準備から運営まで責任を持って裏方を引き受けいただいた各自治体、資料館の方々。エクスカージョンの段取りから地元組織間のコーディネートに奔走された地元市民団体。特に昨年の水俣では、大変であったというお話を聞いております。



第4回公害資料館連携フォーラムin水俣「学校」分科会にて(2016.12.17)

の研究会が、我々と共催で誕生し、研究集会を開催できました。人はそれぞれの職場や組織、またはもっと私的な事情を背負っています。であるが故に思っていること出来ることの間には隔たりが生まれます。昨年の水俣はそれを最も感じた大会でした。やはり60年という歳月が流れた今もなお、原因企

業の城下町で起こった問題であるということが大きな要因なのでしょう。しかし、それぞれの立場の人々が可能な範囲で動き、可能な限り「言葉」にしていたいただきました。私はその言葉の行間にある、私たちとの共通の思いを大切にしていかなければならないことを深く感じました。

忙中一筆

スタディツアーから

ネットワークへ



白神 加奈子(しらが かなこ)

プロフィール:認定ファンドレイザー。某大学の寄附部門のパート職員の傍ら、休日は公害資料館ネットワークの事務局に携わる。最近の関心は、アジアの現代アート。美術館で展示解説ボランティアを始める。趣味は長唄三味線。

事務局としてはもちろんのこと、いままでの経験やいろんな視点から、たずさわっていきたいと思っています。

フォーラムは、スタディツアーで出会った人達と再会できる場にもなっていますし、それだけでなく新しい人たちにも楽しく開かれた場になるように

あおぞら財団との縁は、就職してすぐに研修をさせてもらったことから始まりました。15年前のことです。5ヶ月の研修を終え、大阪を離れる最終日に、当時、資料保存のバイトをしていた林美帆さんと、今生の別れかのような挨拶をしたことを覚えています。しかし、今、私のメールの受信・送信ボックスは、林さんもしくは栗本さんの名前で占められています。この時には、こんなに仕事を一緒にすることになるとは思いもしませんでした。

さて、今、私は公害資料館ネットワークの事務局をさせてもらっていますが、もともとは、あおぞら財団の妹分のようなみずしま財団(公益財団法人水島地域環境再生財団(倉敷市))の研究員でした。みずしま財団

に在職中の2009年に「公害地域の今を伝えるスタディツアー」が始まり、1回目の富山へは、純粹なる参加者として参加しました。大気汚染以外の公害地域のことをほとんど知らないことに気づき、参加を決めたのですが、ここでは、学びの過程の大事さを改めて感じました。大学生達が夜遅くまで自分の学びと気持ちの形にしようと議論をし続けているのを目にしてさっさと成果物をつくって寝ようとした自分のあり方を省みたものです。2、3回目は、スタッフとして関わるようになり、報告書の作成にたずさわりました。特に2回目の新潟は、非常に強い衝撃をうけました。公害患者は公害患者であると同時に、その地域に暮らす住民という、当たり前

のことを気づかされたのです。でも、限られた時間の中で話すと、どうしても単純化し、わかりやすいストーリーにしてしまふ。それは今でも悩ましい課題です。その後、倉敷を離れ、福岡に移り住みました。公害というテーマにどのように関わりを持ち続けるのか模索している時に、声をかけていただき、公害資料館ネットワーク事務局の一部を担うことになりました。大阪と福岡の距離もなんのその。今、流行りのテレワークです。現在、第4回公害資料館連携フォーラムの報告書づくり、真っ最中。このリベラが発行された頃には、完成して、次の5回目、大阪開催でのフォーラムへむけて準備が始まっているかと思っています。



公害地域の今を伝えるスタディツアー(富山)2009



こちらが二酸化炭素冷媒の冷蔵・冷凍システム。
上段が給水タンクで、下段が二酸化炭素を圧縮し、
冷気を生み出す。

冷凍食品を製造するための
トンネル型フリーザー。上の
写真のシステムの冷気がこ
ちらに使われている。この空
間は、実際の食品工場と同
じように衛生関連施設も設
置され、多彩な研究に利用
できるようになっている。



案内をもらった山本さ
ん(左)と佐藤さん(中)。施
設の2階には、講義や勉強会
などが行えるセミナールー
ムも設置されている。



創業は1999年。2003年に佃
に本社事務所を移転し、今
年「FTEアカデミー」を開
設した。全国各地に営業所
を構えるほか、徳島に製造
工場を構える。従業員はお
よそ100名。



FTEアカデミー
.....
住所/佃5-5-30 電話/06-6471-2560

フードテクノエンジニアリング 本社
.....
住所/佃4-8-13 電話/06-6474-3910

<http://www.foodtechno-eng.co.jp/>

取材・文・藤原武志

モノづくりの町・西淀川～暮らしの裏方を支えている製造業。
同じ区内に住んでいても、実はよく知らない。
そこでではどんな人が、何を、どんな思いでつくっているのか？
をお伝えするページです。



食品をつくる場に 革新的なエコをつくる

フードテクノエンジニアリング株式会社

中小の工場が軒を連ねる佃。その通りの一
角にフードテクノエンジニアリングの本
社がある。
社名から食品関連の会社と察しがつくも
の、では具体的に何をしている会社？
答えは冷蔵・冷凍設備の会社。冷蔵・冷凍と
言っても家庭用でもなければ業務用にも
非ず。食品加工の工場で使われる巨大な冷
蔵庫だったり、冷凍食品を製造するための
フリーザーだったり。その設計・製造・施
工・運営などが業務だ。お弁当づくりや時
短レシピにお役立ちの、あの商品、この商
品が実は、こちらの設備によって生まれ
ていたりするというわけ。
そんなフードテクノエンジニアリングが
一念発起。今年1月、本社からほど近い場
所に研究施設「FTEアカデミー」を開設

した。で、何を研究？
「二酸化炭素を冷媒にした、地球環境に優
しい冷蔵・冷凍装置を研究・開発していま
す」と教えてくれたのは、エンジニアリン
グ事業部の山本銀河さん。
かつて冷蔵・冷凍装置の冷媒に広く使わ
れていたのはフロン類。これがオゾン層を
破壊するため、代替フロンが使用される
ようになった。ところがその代替フロン、
温室効果がとても高い。そこで二酸化炭
素やアンモニアなど、自然冷媒を使った
冷蔵・冷凍装置の技術に注目されるよう
になった。
「すでに自然冷媒の業務用冷蔵・冷凍庫は
あります。ところが私たちが手がけてい
るような産業用となると、技術やコスト
面で課題がありました。その研究・開発の

場がここなんです」と言うのは、副室長
の佐藤徳重さんだ。
施設にはすでに二酸化炭素を冷媒にした、
フリーザーと冷蔵庫が稼働中。この装置
は代替フロンに比べて温室効果が10
0〜1万分の1で、排熱は工場の洗浄な
どに利用できる。現在はさまざまなデー
タをとって実用化に邁進中。地球環境に
配慮した革新的な冷蔵・冷凍設備が西淀
川から生まれようとしているのである。
「この施設は、同業メーカーや大学、地元
企業の人たちとの共同研究の場でもあり
ます。西淀川から世界に、新たな技術を発
信していけるようがんばります」と佐藤
さんは笑顔。なんだか佃で、すごいことが
起きているようです。

想像力を働かせ、みんな話
合いながら考えていくうちに、
公害が引き起こす問題の複雑さ
やその時代を生きた人々の思い
について、実感をもって理解し
ていくことができます。
「教材をぜひ使ってみてほしい！」と
思われた方は、あおぞら財団ま
でお申込みください。●
(地球環境基金助成事業)

【教材実践のお申込み】

メールまたはFAXにて、以下の必要事項をご連絡
ください。

①お名前、②お電話番号、③メールアドレス、④教材
を使ってみたい場所(ご所属の学校名・学年、市民講
座など、具体的に)、⑤申し込んだ動機(短くて結構
です)、⑥あおぞら財団まで打ち合わせに来ることは
可能かどうか、⑦その他、質問などがあれば

お問合せ: TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885
E-mail webmaster@aozora.or.jp

【教材モニター募集要項】

募集期間 2017年5月～2018年2月

- ◆ご自身がファシリテーターとして教材を使う意欲
のある方を募集します。
- ◆教材を使っていただく場にスタッフがオブザー
バー(記録者)として伺います。
- ◆授業の様子を録音・撮影しますので、ご了解ください。
- ◆教材を使う事前事後に、アンケートにご回答くだ
さい。
- ◆記録やアンケートでいただいたご意見を、あおぞ
ら財団で教材に反映させる場合があります。

新ESD教材！
手渡したいのは青い空
住民が動いた街
西淀川の経験から学ぶ
教材モニター募集



こんな教材があります！

西淀川公害
フォトランゲージ
西淀川公害に関する写真をみな
がら話し合う教材です。
(対象: 小学校)



ワークシート「照代の物語」
を使って「公害病になった
ら?」連想図
公害患者の物語を読んで、どん
なことが起きたか想像し、連想
図を書きながら公害被害の社会
構造を考えます。
(対象: 小学校高学年)

ロールプレイ「203X年、
あなたの町で公害がおきたら」
町に住む様々な立場の役になり
きって話し合う、簡単なお芝居を
する教材です。
近未来、あなたの住む町でナゾの
病気が流行ります。ひよつとして
あの工場のせいでは...?
(対象: 小学校高学年)



簡易カードバー
ジョン「住民が
動いたまちー西淀川の経験
から学ぶ」
シミュレーション教材の簡易
バージョンです。
(対象: 小学校高学年) など...



一つの物事も立場によ
って見方、考え方が
大きく異なると強く感じ、
今後の歴史の研究にも重要なことだ
と感じました(佛教大) / とてもリアルな体験が
できて、公害問題のみならず、これからの社会の
あり方について考えさせられました(福島大)



シリーズ 西淀川記憶あつめ隊 Vol.19



井上 善雄 さん

2017年2月12日
聞き取り

西淀川・姫里で生まれ育ち、西淀川大気汚染公害裁判の弁護を行った井上善雄さんから、幼少時代や訴訟に至った経緯を聞きました。

◆「公害問題と労災問題にずっとまみれていた」

善雄さんは昭和21年、福山市生まれ。翌22年には西淀川へ移り、御幣島や姫里で育ちました。祖父・善七さんは福山市から江成町（現・福島区）に職工として働きに

友製鋼（現住友金属）の工場に勤めていたが、20歳代に結核性肋膜炎で亡くなりました。今で言えは労災に当たりますが、当時補償を受けることはありませんでした。善七さんの長男も結核肋膜炎、次男は戦死。善雄さんは「労災は公害問題の原点の一つである」と評価します。

◆「生活のためには仕方がない」という意識

家族4、5人が四畳半のアパートで暮らすのが当たり前の時代、西淀川の住民の多くにとって、小さな工場でも仕事があればありがたい話。近所が煙だらけであることは「生きていくためにはやむを得ない」ことであつただろうと語ります。工場が煙を出していても、そのおかげでご飯が食べられるから「煙を出していることを責めら

れない」、工場が騒音を出しているも、そこで働いている人がいるから「仕方がない」というのがその当時の親や教師の意識であり、「そういう意識の中で生きてきた」といいます。

◆「僻みっぽい子ども」が感じたこと

昭和35年頃に小学校で乾布摩擦が行われるようになりました。「煙が悪い」ということはみんな直感的には分っているものの、「煙が悪い」と社会的に追求するのに20年近くかかりました。

善雄さんはご自身を「僻みっぽい子ども」であつたといいます。「煙は悪いものである」という感覚を口には出せない現実があり、また調査研究にも及ばないという中で、理論化・正当化することはできなかったものの、「なんかおかしい」「世の中おかしい」という感覚は持っていたそうです。

◆「ほっとくわけにはいかん」

昭和30年代後半から40年代に公害被害が発覚すると、社会は西淀川を「見捨てられなくなつた」といいます。大学卒業後、弁護士となった善雄さんが、西淀川大気汚染公害裁判に関わるようになったきっかけは「人間関係」といいます。森脇君雄さん（当時西淀川公害患者と家族の会事務局長）から「四日市公害裁判みた

いなことで きませんやろか」と声がかかり、「勝てるかどうか分かんないからやけど、しゃありまっか！」となったそうです。その背景には、祖母が公害患者であつたことから「自分のなかにも被害者感



実践から学ぶコミュニティ・オーガナイズング講座にて聞き取りました

まるよし

まるよしは、お父さんとお母さんが御幣島でお店を開いて30年。お昼は定食、夜は居酒屋をやっています。店内はカウンターのみ、お惣菜が入っている冷蔵庫から自分の欲しいものを自由にとってくることができます。揚げ物だけでなく、野菜を使った一品ものも多く、普段野菜が足りてないなあという人にもおすすめです。かわいいお父さんとお母さんと話をしながらお酒を飲める、とても居心地のいいお店です。



鶏のたたき

所 大阪市西淀川区御幣島1-3-12
休 日、祝日
営 11:00~15:00、17:00~22:30
☎ 06-6478-1388

（イラスト：とりやまひろこ）

サザンカ

サザンカは、朝はモーニング、お昼はランチ、夕方まで喫茶店としてやっています。西淀川区役所の前でお店を開いて17年です。お店の中では雑貨やブリザードフラワーも売っています。また夜は、楽器の練習場やライブハウスとしても貸し出ししています。サザンカでは朝のモーニングが7:30から、なんと11:30までやっています！メニューもトーストとサンドイッチが選べて、コーヒーか紅茶もついてきます。軽く朝食べたいなあという人はぜひ一度。アートが好きなお父さんとお母さんのほからいて、いつも絵が飾ってある味のあるお店ですよ。



モーニングの
玉子トーストとサラダ

所 大阪市西淀川区御幣島1-1-18
休 日
営 7:30~18:30
☎ 06-6471-1680

第20回 ぶらりとやうりとお西淀川めぐり

ランチタイムじゃない時も足をはこびたいお店

お昼の定食もおいしいけれど、お昼だけじゃもったいない！もっと行ってみたいお店をご紹介します！



世界の 大気汚染と 交通施策 マレーシア編

湯川 創太郎
大阪市立大学大学院
経営学研究科（商学部）
特任講師

ジャカルタのあるジャワ島から赤道を越えて北に1000キロほどのマレー半島にある国、マレーシアもモータリゼーションが進んだ国で、そのもたらす環境負荷への対応に腐心しているのだが、この国では、別の公害問題に悩まされています。マレーシアの対岸のスマトラ島では、熱帯雨林がパームオイルなどのプランテーションへと転換が進んでいますが、5月～10月の乾期の土地の開墾の際に大規模な野焼きが行われます。それが、モンスーンの気流に乗ってマレーシアに到来するのです。ひど

い時には海岸から内陸数十キロの地域すべてが、近くの庭でたき火をしたのではないかとような焦げくさい煙にまきこまれ（しかも逃げられない）、昼間だというのに空も薄暗くなったりします。この問題、毎年被害を受けるマレーシアはインドネシアに怒り心頭ですが、実はプランテーションの開発はマレーシア企業によって行われているとも言われており、ややこしい問題となっています。



ヘイズの様子（クアラルンプール国際空港）

ありがとうございます (2016年12月～2017年2月 敬称略・順不同)

●入会

真川 順子
青木 イクヨ

●お助けボランティア

長洲智子
左成志朗
山下晴美
神原光子

●寄附・寄贈者

石川 遼子
イタイタイ病対策協議会
伊藤 卓次
遠藤 宏一
大栗 和美
お好み焼き ボン
柏原 愛子

片岡 直樹
株式会社あゆみ印刷デザイン
株式会社マルモット
川崎 美栄子
合同会社 城山
古賀 崇
鷺坂 長美
谷内 久美子
中村 昌史
中山 裕二
ハンヌ・ヴァイサネン
水俣協立病院
村田 稔
村松 昭夫
四日市大学
奥村 昌裕
株式会社かんきょうムーブ

山田 明
酒井 健一
新田 保次
石井 琢也
浅井 真二
蔵本 幸治
菱山 隆二

スタッフツイッター 編集後記



私にとって20年前と現在の違いの象徴はスマートフォンです。初代iPhoneの販売は2007年6月29日。インターネットや情報発信が身近になり、あおぞら財団をwebで知る人が多くなりました。こんな夢の世界、あおぞら財団設立時(1996年)には想像できなかったと、スマホで授業の黒板を写真撮影されるたびに思います。

りべら No.144 2017年5月号
(季刊1日、年4回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
編集人:林 美帆
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885
http://aozora.or.jp/ webmaster@aozora.or.jp
デザイン:(株)バード・デザインハウス
会員の購読料は会費に含まれています。
本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



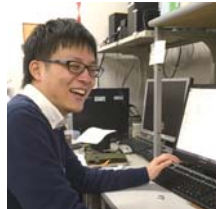
あおぞら財団
Facebookページ
「いいね!」を
押してくださいね。



読者の声

嶋田 大樹(元アルバイト、大阪経済大学卒)

一昨年の8月にあおぞら財団のインターシッ
プに参加し、そこからアルバイトとして約1年
半間財団に携わりました。アルバイトでは、主
に会員名簿管理ソフトウェアの更新作業を
行っておりました。過去に取り扱ったことのな
いデータ量で、作業に苦勞することもありまし
たが、良い経験になりました。また、アルバイト
を通して西淀川公害を含む環境問題の複雑さを知り、環境保全・再生
活動の重要性を学びました。私事で恐縮ですが、今春から地元新潟の
環境保全機関に就職する予定です。あおぞら財団でのアルバイト経験
を活かして、環境保全活動に貢献できれば良いと思っております。1年
半という短い間でしたが、大変お世話になりました。



中島 大賀(元アルバイト、大阪工業大学卒)

私は学生スタッフとして約1年半、あおぞら財
団で働かせていただきました。大学で工業デ
ザインを学んでいたということで、主に御堂筋
サイクルピクニック関連の印刷物のデザインを
していました。
あおぞら財団での仕事は他のアルバイトとは
違い、マニュアルがほとんどなく、自分の頭で考えて働きます。前の日
に残した仕事、新しく頼まれた仕事、自分でつくる仕事。自分が何をすべ
きか、いつすべきか、どのようにすべきか。これらを組み合わせてスケ
ジュールを管理し、働くというとてもやりがいのある仕事でした。
これから私は建材メーカーに就職します。あおぞら財団で学んだこと
を生かし、1日でも長く使える製品、愛着を持ってもらえる製品を開発
し、大量消費の観点から環境づくりに貢献したいと思います。



ディサービスセンター

あおぞら苑



2006年10月1日にデイサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがデイサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

【お問い合わせ】
TEL : 06-6475-0111 FAX : 06-6475-0114
URL : http://aozoraen.com/
運 営 : 社会福祉法人 あゆみ福祉会

◆あおぞら苑(事業所番号 2791000090)
〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号
開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日18人

◆あおぞら苑II(事業所番号 2771002173)
〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号
開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日25人



あおぞら御膳



あおぞらの湯

●● Hamada Kagaku ●●

廃棄物でお困りなら 浜田化学のコンシェルジュに お任せください

 **廃食用油
リサイクル**
使い終わった廃食用油

 **食品残渣
リサイクル**
加工中に発生した食品残渣

 **廃棄物
リサイクル**
その他の廃棄物

お客様に最適なメニューをご提案いたします。

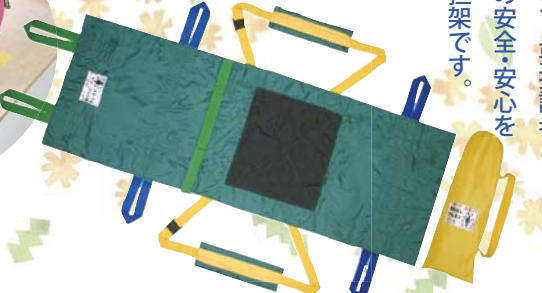
詳しくはホームページをご覧ください。 [浜田化学 コンシェルジュ](#) [検 索](#)

浜田化学株式会社 ☎ 06-6411-3457 <http://www.hamadakagaku.co.jp>



災害時の要援護者の避難誘導に、要援護者と援護者の安全・安心をお届けします。

救助担架フレスト



救助担架フレストは、災害時の人命救助の為に開発されました。ユニバーサルデザインに基づいて、要援護者と援護者の安全・安心を考えた担架です。

階段下り
株式会社 輝章
TEL: 06-6474-2114 FAX: 06-4394-7120 E-mail: info@ud-passion.com http://www.ud-passion.com/



階段上り

医療費の支払でお困りの方 相談下さい。「無料低額診療」実施中！

～「いのちの平等」をめざして～

差額室料をとらず、24時間365日 医療と介護

看護師募集中!

WHO認証
「地域健康増進支援事業所」
認証施設

・西淀病院
・のぞと診療所
・千北診療所

・ファミリークリニックあい
・姫島診療所
・ファミリークリニックなごみ

・介護老人保健施設よどの里
・在宅総合センターらくらく
・社会医学研究所



一般財団法人淀川勤労者厚生協会 TEL 06-6471-0496 URL www.yodokyo.or.jp